

瀧谷山報

通巻182号
[令和6年4月発行]



【今後の当山行事予定】

春季大祭 5月26日(5月第四日曜)

●御本尊御開扉大護摩供【本堂】

〈午前〉6時・10時・11時30分 〈午後〉1時30分・3時

●大般若転読付大護摩供【本堂】

午前11時30分

●柴燈大護摩供【境内】

正午頃開始、午後1時頃点火

●滝不動堂護摩供【滝不動堂】

午前9時頃～午後2時頃

(時刻は滝不動堂山伏に直接お尋ねください)

観世音夏まつり 7月14日(日)

●施餓鬼法要【客殿大広間】

午後1時より

(清興は法要に続いて午後3時頃より開催予定)

●福引【客殿玄関】

午前10時頃～午後3時頃予定

(お申し込みは6月頃より) 案内します)

地藏盆 8月24日(土)

●地藏盆会法要【子安地藏堂前】

午後3時30分頃より

- 平日…〈午前〉7時・10時・11時30分
 - 土・日・祝…〈午前〉7時・10時・11時30分 〈午後〉1時30分・3時
 - 仏具磨きの日…4月25日は仏具磨きのため午前7時の朝護摩のみとなります。
- ※毎月28日のお護摩祈禱は、令和6年5月より日々のお護摩祈禱と同じ時刻になります。

交通安全祈願 (車のご祈禱)

午前9時より午後4時 (毎時0分・30分よりご祈禱いたします。少し早めに寺務所にてお申し込みください)
※毎月第4日曜日は月例祭のため交通安全のご祈禱はありません。

令和6年5月より月例祭は毎月第4日曜日に執り行います。

月例祭

- 御本尊御開扉大護摩供…〈午前〉6時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時
 - 滝不動堂護摩供・宝剣加持…午前9時頃～午後2時頃 (滝不動堂山伏に直接お尋ねください)
- ※月例祭は交通安全のご祈禱はありません。

行事の予定は変更になる場合がございます。
詳しくは瀧谷山公式ホームページにて随時
ご案内いたしますので、来山前に今一度
ご確認ください。



瀧谷山公式ホームページ



Instagram

河内の国は古代からのかおりに満ちあふれたところである。おびただしい古墳群や往時を偲ばせる街道、個性豊かな地名などが暮らしの中に長き歴史としてそのまま生きていく地域であろう。その歴史のかおりを一段と際立たせるものに、数々のお寺とお社の存在も欠かせないことはできない。地形的あるいは直感的に「いいところ」と思わせる場所には、必ずと言っていいほどに寺社が鎮座している。

瀧谷山から数キロ南方にしばらく向かうと金剛山の山麓へとさしかかる。この一帯は修験道の始祖「役小角」の活躍が伝承される領域とも重なるが、その領域に寺元という地籍がある。地籍名が物語るように、その中心には「観心寺」という名の古刹が厳然と輪奐を構えている。瀧谷山ともゆかりがあるこの古寺には、大阪府下最古の国宝建造物の金堂が建ち、その金堂のご本尊には平安初期における密教美術の至宝と謳われる「如意輪観音菩薩」が祀られ、建物と同じく国宝指定を受けている。

弘法大師は弘仁七年（816）高野山開創に着手されるが、その前年にかの如意輪観音を造立された観心寺には伝えられている。弘法大師四十二歳、世の平安と衆生の厄除けを発願されたことという。

弘仁六年に弘法大師が発願された理由は、世の平安と衆生の厄除けを念じてと先述したが、ここにいう衆生は決してわたしたち人間に限ったことでもなからう。そのわけは如意輪観音が有する六手には、地獄道から天道に至る六道を救済することと経典自らが説くところによる。いずれも迷いの世界にとどまる六道の衆生たちが、挙って救われてこそ真の平安がもたらされる。しかも仏の教えを学び実践することに最も適した人間が、ほんとうの幸福に至る道筋は六道すべての幸せへと通ずる道ともなる。それゆえに私たちには常に善根を積み続ける意味がある。京都と高野山を結ぶ線上にあたるこの寺で、お大師さまが大きな誓願を立てられた深意が、今もこの御仏を拝すると大きな波動のように時を超えて迫り来る。

歌人にして仏教美術に造詣が深かった會津八一。特に奈良の寺々を好んで数十回と旅した彼が、大正十一年の秋には足を延ばして観心寺を訪れた。その時の一首。

なまめきて ひぎにたてたる しろたへの
ほとけのひちは うつつともなし

さて、如意輪観音のお姿にはいくつかの特徴がみられる。まずは六臂すなわち六本の御手をお持ちであること、右膝を立ててお顔を少しく右に傾けている。まっすぐに端座されることの多い他の仏像に比して、くつろがれたかのような如意輪観音のたずまひは魅惑的とも称される。

六本の御手については、それぞれに意味が込められている。右の第一手はそっと右頬に添えられ、あらゆる衆生を深く案じる「思惟」を示し、右の第二手はすべての願いを叶える「如意宝珠」を胸の前に捧げ持ち、右の第三手はあらゆる苦しみから済度するための「念珠」を持つ。左の第一手は真理から動かざること山の如くに「大地」を押し、左の第二手はすべてのはたらきを浄める象徴としての「蓮華」をそっと持ち添える。左の第三手はすばらしき仏の教えが広まるようにと「法輪」を中指の先に載せている。それらの御手の動きはまったく各別であるにもかかわらず、その全体が絶妙なバランスで一体化している。とりわけ観心寺の観音さまは、その均衡具合といい、豊かな面相の秀麗さといい、群を抜いた技巧をもって造立されている。さすがは弘法大師にかかる尊像なりと永く尊崇される真正正銘の国宝である。

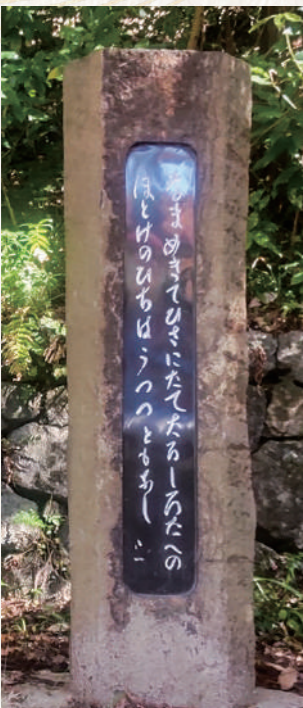
門外不出の秘仏と邂逅し、観音さまの大誓願につつまれて、その波動を一身に受けた新鮮な心緒を詠っている。奈良以外の地にこれほどまでの御仏がおわすことにさぞ驚いたことであろう。

霊地とされる瀧谷山の周辺は、観心寺を始めとした「いいところ」すなわち名所に恵まれた土地柄である。春本番を迎えたこの季節、お不動さまへのお参りを重ねながら、河内文化の豊饒さに触れてみることをお勧めしたい。

※紹介した如意輪観音さまは毎年四月十七日・十八日に特別ご開扉されて直接拝することが叶う。

※會津八一（1881～1956）新潟市出身。

書歌に秀で、秋艸道人と号した。美術史を研究。早稲田大学教授。



春季大祭

大般若経転読付大護摩供
柴燈大護摩供
厳修

五月二十六日(第四日曜日)



令和六年五月二十六日(第四日曜日)、瀧谷山では、年間最大の行事である春季大祭をお勤めいたします。

本堂では、十二時半より組寺寺院方ご出仕のもと、大般若経転読付大護摩供が勤められます。大勢の僧侶が『大般若経』を誦する様は躍動的で、普段にもまして荘厳な護摩供です。あわせて、家内安全・身体健全・商売繁盛・災難消除・眼病平癒など、ご信徒みなさまの所願成就を祈念いたします。寺務所にてご祈祷にお申し込みの上、どうぞ本堂にご参集ください。

境内では正午ごろより、百名にのぼる大峯山修験者によって、柴燈大護摩供が厳修されます。山伏行列が法螺貝を吹きながら山内を練り歩き、柴燈大護摩供の結果内にて古式に則った作法を勤める様子は壮観です。また滝不動堂では随時、当山所属の山伏により護摩供が勤められております。こちらもあわせてご参拝ください。

● 御本尊御開扉大護摩供

【本堂】：午前六時

● 大般若経転読付大護摩供

【本堂】：午前十一時三十分

● 柴燈大護摩供

【境内】：正午ごろ開始

午後二時ごろ点火

● 護摩木：一本 三〇〇円

(二本よりお申し込みいただけます)

柴燈大護摩供とは…

山中で採った柴(檜葉)に火を燈し、その火中に不動明王を招いて人々の平安を祈る、修験道の儀礼です。一説によると宇多天皇の寛平2年(890年、平安時代前期)日吉大社においてはじめて勤められたものが起源といわれます。瀧谷山の柴燈大護摩供では、山伏問答や宝弓の儀・宝剣の儀などの作法が勤められたのち、檜葉で覆われた護摩壇に火を燈し、大火焰に護摩木を投げ祈りを込めてお焚きいたします。



大般若転読とは…

六百巻に及ぶ『大般若経』を大勢の僧侶が誦します。蛇腹折りになった経本を大きく宙に広げ、高い位置から頁を一気に繰り落とすようにする所作が目を引き、このとき生じる風を受けると長寿になる、厄除けになるともいわれています。また読み終えた経本を机に叩きつけるようにする大きな音も特徴的で、たいへん勇壮な読経として知られています。



観世音夏まつり

七月十四日(日)



廻向と観音

観世音夏まつりという事で観音さまのお話をしてみたいと思います。

観音さまは普門示現ふもんじげんといって、普くすべての方向におしえの入口を示し、私たちがいかなる境遇にあっても、必要に応じてあらゆる姿をとって現れ、お導きくださいます。人は死後、前生の行いにより浄土や地獄に行ったり、飢えに苦しむ餓鬼となったり、また人に生まれ変わったりするとされますが、そのどの世界でも、観音さまが姿を変えて現れ、必ずお救いくださるとされます。

観世音夏まつりは、ご先祖さまや、亡くなった方々のための法要ですが、そこに観音さまが登場するのは、観音さまへのこうした信仰が基になっています。いわば、私たちが観音さまのお力を借りて、ご先祖さまにご供養という贈り物をするためのお勤めが、観世音夏まつりとも言えます。

供養と一口に言ってもさまざまです。お蠟燭

の灯り、お線香、お花、それがもともよく見られるご供養ですが、観世音夏まつりでは廻向くわうといって、読経や祈りによる功德を亡くなられた方に回し向けることに主眼を置いています。

観世音夏まつりのお勤めでは、ご先祖さまを含むあらゆる生き物の御霊のために、たくさん陀羅尼が唱えられます。これは、餓鬼道に落ちた者たちを救うため、お釈迦さまの弟子阿難尊者が唱えた陀羅尼に由来します。この陀羅尼は、初め観音さまがお釈迦さまへ授け、そして阿難尊者に伝わったもの。ここには、如何なる世界の者であれ、必ず救い導くという観音さまの決意が込められていることでしょう。

亡くなられた方はこの世で功德を積むことができません。餓鬼も同じく、新たな功德を積むこともできず飢えに苦しみます。私たちの手でお供えや読経をし、観音さまに救っていただけるようお願いすることが供養となります。そして、その功德をご先祖さまに受け取っていただき、浄土で安らかな日々を過ごしていただけるよう、祈りのひと時をお過ごしください。

令和六年七月十四日、瀧谷山では観世音夏まつりをお勤めいたします。

観世音夏まつりは、故人を偲んでお勤めする、当山では年に一度の廻向の行事です。お申し込みいただいた精霊のお塔婆をご用意し、当日は各々お戒名を読み上げて、ご信徒みなさまのご先祖さまやご縁故の方々のお供養申し上げます。

観世音夏まつりお申し込みの方には、恒例の福引がございます。また法要後には清興(落語)も開催準備しております。どうぞお楽しみにご参詣ください。ご先祖さまやご縁故の方々を偲び、ともに涼んで笑って、良い一日をお過ごしいただけますよう、ご案内申し上げます。

●観世音夏まつり

【客殿大広間】…午後一時より法要

●廻向料：五〇〇〇円

(五体まで一律。六体以上、追加一体につき一〇〇〇円)

◎お問い合わせ・お申し込み用紙は、寺務所までお気軽におたずねください。以前お申し込みくださった方には六月に案内状をお送りいたします。あらたに案内状郵送ご希望の方は、その旨お申し付けください。

◎多くの方にお参りいただきやすいよう、七月第二日曜日にお勤めしております。どうぞお誘い合わせの上、お申し込みください。



月例祭日変更のお知らせ

令和六年五月より、二十八日の月例祭を、毎月の第四日曜日に執り行うことになりました。

当山では長年、お不動さまのご縁日である二十八日月例祭を勤めており、その賑わいは地域の風物詩として親しまれてきました。しかしながら、近年の社会情勢や生活スタイルの変化、交通事情の変化などを考慮し、皆さまに、よりお参りしていただきやすいよう総合的に検討した結果、月例祭を日曜日にお勤めすることになりました。

毎月の第四日曜日には、本堂にて御本尊御開扉大護摩供を厳修し、滝不動堂にて修験者による護摩供を執り行います。また駐車場には露店が並びます。二十八日は従前と御開帳の日といたしますが、加えて別に月例祭を行うという形になります。

どうかご理解賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

毎月第4日曜日(令和6年5月以降)

●御本尊御開扉大護摩供……〈午前〉6時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時

●滝不動堂護摩供・宝剣加持……午前9時頃～午後2時頃

※交通安全のご祈祷はありません

毎月28日のお護摩祈祷

●平日の場合……〈午前〉7時・10時・11時30分

●土・日・祝の場合……〈午前〉7時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時

※日々のお護摩祈祷と同じ時間に執り行います

※第4日曜日の月例祭にあたるときには交通安全のご祈祷はありません

お寺のごはん

16 人参ご飯

毎月第三日曜日には、当山所属の瀧峰大護摩講の山伏が集まり、修験者としての心得や作法の細々、お経の唱え方などの講習会が催されます。この日は朝から法螺の音が山内に響きます。

お昼ともなると、一同台所で食事の時間です。炊き合わせ、お汁、漬物と簡素なものですが、みなさま楽しみに喜んでくださいます。

ご飯は季節の炊き込みご飯にすることが多く、春先は人参ご飯をよく炊きます。瀧谷山では昔から馴染みのあるものですが、意外に珍しがられますので、こゝでご紹介いたします。



材 料 ●米 ●人参 ●薄揚げ ●薄口醤油 ●濃口醤油

- 人参は突き機で突きます。薄揚げは薄く切っておきます。
- 洗った米、人参、薄揚げをお釜に入れます。

作り方 人参から水分が出ますので、水加減は分量通りで構いません。

- 少量の薄口醤油で味をつけ、さらに少量の濃口醤油で香りと色をつけて、普通の白米と同様に炊きます。

炊き上がりますと香ばしい香りがしてきます。人参の甘みもなんとも言えず、ほんのりオレンジ色のご飯は食欲をそそります。おこげもまたおいしいものです。

特志寄進者御芳名

(敬称略 順不同)

- 堺市 泉佐野市 大阪市 福岡県 和歌山県 和歌山県 堺市 奈良県 奈良県 兵庫県
- 経机奉納(敬称略) 八尾市
- 玉垣寄進者御芳名 (敬称略・順不同) 堺市 富田林市

瀧谷山温故知新⑤

蓮華心寺との関わり

本堂左手に建っている観音堂は、瀧谷山に現存する最も古い建物であり、慶長年間二十六年に現在の本堂が建立されるまで瀧谷山の本堂であった建物であり、お厨子も御本尊不動明王をお祀りするように造られています。御本尊不動明王は、安土桃山時代末期から明治時代半ばに至るまで、ながらくこのお堂にお祀りされてきたのです。



慶長年間各地で大地震が続き、慶長の役から大坂夏の陣に至る不穏な時代ですが、慶長五年(1600年)の関ヶ原の戦のまさに同日に瀧谷山鎮守社として白山権現の勧進が行われたという記録が残って

おり、この時には現在の伽藍地が定まり、本堂(現・観音堂)も既に建立されていたと考えられます。この頃になって、ようやく瀧谷山は再興の礎を築きはじめたのでした。さて、この観音堂に現在お祀りされている聖観音菩薩像は、瀧谷山と深い関係にある蓮華心寺のご本尊であったもので、室町時代の御作といわれる切金細工の鮮やかな美しい立像です。河州錦部郡彼方村(現・富田林市彼方)一帯には十二坊もの大きな伽藍があったと伝えられていますが、蓮華心寺は明治政府の廃仏毀釈によって明治十七年に瀧谷山に統合され、以来当山で寺宝をお預かりして祀り継ぐこととなったのです。

大切に収納している寺宝の中に、瀧谷山什物のほかに、「光明曼荼羅 彼方村蓮華心寺」と箱書きのある光明曼荼羅のお軸や、「五大尊 河内錦部郡彼方村 蓮華心密寺」と箱書きのある五大尊像のお軸などがあります。いずれも正確な時代はわかりませんが古くから伝わるものです。蓮華心寺からは、これらのほかにも金剛宝珠鈴(弘法大師御請来「松虫の鈴」平安時代)や延喜帝(醍醐天皇)の御籬、本堂前の宝篋印塔が伝わっており、瀧谷山で大切に

瀧谷山の四季⑧

二十四節気という清明(四月初旬)から小満(五月下旬ごろ)にかけての季節は、一年で最も生命の輝きを感じる時期です。なかでも七十二候でいう玄鳥至(つばめきたる)から紅花榮(べにばなさかう)までは、生物が活気づいて目まぐるしい変化のある季節と言えるでしょう。

二十四節気七十二候はもともと古代中国の考え方ですが、江戸時代に日本の風土に合わせて改訂され「本朝七十二候」として考案されたものが現在では一般的であり、季語や歳時記とあわせて生活を豊かにする味わい深いものです。地球規模で気候変動が進む昨今においても、いまのところは食べ物の旬や草花の風物など日々の暮らしの季節感と不思議に合致しているように思えます。

瀧谷山でも、お釈迦様の誕生日である花まつりの頃には春爛漫、そこから一気に新芽が吹き出して、ちょうど春季大祭が行われる頃には向かいの観音山も裏山も境内一帯が鮮やかな新緑に包まれます。生命の活力が溢れる季節の始まりです。



謹啓 陽春の候 皆様ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。皆様には、平素より当山に格別のご信援を賜り、有り難く厚く御礼申し上げます。

さて、私儀去る令和五年十二月一日をもって、瀧谷不動明王寺 住職に就任いたしました。

当山には「弟子の年齢三十四となるをもって任職とせよ」との遺訓が伝わります。昨年、拙僧満年齢三十四歳となるに及び、未だその任に堪えざる身ながらも、当山中興第五世 荒谷純光僧正より、住職位を譲り受け、その責の重さを痛感しております。

惟えば当山は、平安時代 弘仁十二年 弘法大師の開山されてより、一千二百有余年の歴史があります。幾度もの戦乱を乗り越え、今に至るを得たのは、歴代住職の弛まぬ努力と、ご信心の皆様の一千二百年に渡る厚きご支援があったからに違いありません。

翻って今、山主の重職を継承するに当たり、微力ながら弘法護持 寺門興隆のため専心努力致す所存でございます。

いますので、なにとぞ前任職同様の指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

なお同じく当山慣例により、晋山式は執り行わず、書面でのご挨拶をもって代えさせていただきます。

令和六年四月吉日

謹白

瀧谷不動明王寺

住職 荒谷純榮



ご信徒の皆様方には佛天のご加護のもと、ご清栄の御事とお慶び申し上げます。平素より当山のため、格別のご信援を賜り、ありがとうございました。篤く御礼申し上げます。

さて、上の新任職ご挨拶のとおり、私に昨年五月末日をもって職務を交替させていただきました。思い返せば昭和四十年の春、十才で先々代 荒谷實乗師を戒師にいただき得度受戒。二十六才の春から当山の職務に就き、三十四才の春に先代の荒谷實善師より住職を譲られて昨春まで、ちょうど三十四年の間、当山の住職・法人代表を務めさせていただきました。

晋山式を行わず若くしての就任も当山の慣例によるところですが、なかなか重い毎日でございます。充分にその責を果たせたのかと思いつつ、ご本尊様のお導きとご信徒皆様方のご信託をいただき何とか無事に勤められたこと、ありがとうございました。

今後は一僧侶としてさらに祈りを深めてまいりたく存じますが、ご信徒皆様方にはご清祥にて益々のご信心いただきますよう、そして変わらぬご信援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

瀧谷不動明王寺

前任職 荒谷純光